

招祥集



歳旦

含山軒

鍛護公

古心毛此や見ま

新ら

初日影

歳暮

長くつ力病

全

見

邦の身



明和八年

辛卯



歳旦

世を養

明く東風は是と云はれしやなる句龍

く清氷情しあふの大福 白花

中と入の常にも徳の心とて 交

年二

吐紅館

智く如月芽は梅生れ難煮籠我夫

千里回廊同心門松 句龍

中し心慶はまゝに結汲す 白美

年

其三

玉斜亭

四方より造化化れつる人
次牙白花
下意こころを新の福菜
白文
深ゆこ汁田の門を射る
白龍

朱言

申す事の極極
白龍
紫砂やゆふの若小妹皆山
白文
こころを新の福菜
白龍

歳旦

法橋

白星菴

天長一地は月ハ久を郎
白星菴
こころの室の初春
白文
仲賣糸ゆふこころを新
白龍

二 国民勸

哉蓬館

履き知る金の子鞋也 明鳥 亀弟
あまの玉の兔卯の末 白星
桃の短いね織を遠く 白文

三

春富園

初東風やたそぬ廣の日乃要蝶宇

惣領も今春うね往若 象牙

願へ支多とどと人春の野女 白星

朱尾

三方や良くも壓宵やうり 飛牙

歩も海や町を抱瘰の山やうり 蝶宇

釣の外もきも也るれ春乃棚 白星

歳旦

蒼々軒

系物の礼者くやうり 且杜洲

皆接嫌も地蓬葉の影 明峰

昔より状もいふよ 木席

二

汶花亭

赤霞もく建も赤門の松木席

徳も若く餅も若く 杜洲

天津も春次もくやうり 明家

三

石梁舎

一の洲へ船のくまをわたり影明哉

芦の折よよよよ着水 小席

あそびの浜のつらさ 杜洲

東映

於月こぼれよよまのふり 小席

浮城よ草の仕立を平宵飾 明峰

阜の下を望む竹也 杜洲

一

成文舎

大福やとと百味のこころ 練花

こころの春の海にむら 却花

虫出るととと蘭も解とて 穿花

二

語り菴

何れもくもはく人遊るとと朝穿花

清慶の影絵也 式巻 舞花

懐を寒く埃か山と成り人 却花

子柳子よぬ多千民し四万辨 郊花
 具足鏡よ景平乃鏡 穿花
 頭修行但の操よ名と切て 鉢花

歳晚

通つらふへく東矢と多の的 郊花
 物言のよくく多やとく夜 穿花
 目よまやと景たつ折塔の雲飾 鉢花

年内立春

影向やうし、十日れ若戎 亀笏
 多の瀬や弦と喰、美能身 蝶宇
 千金れ夜も垣出し、や多の市 白花
 花智や師走、喜れ結納櫓 我丈
 冬と喜いつ結、彼障を、れ梅 杜洲
 多北内よ、まよ、湖、春よ、面 木虎

空声也此也此井日也春正

明峨

卡一江也濁き及鳥を呼子鳥

穿花

大井之月等笑之次山此師走下

郑花

若水此心上汲んや水

鍊花

云ん況や去年時

句語

一時之来 亦此高風

三星菴

竹節亭也

正旦

法橋老師此天長地久三才此

白き草々

天恩此地一福来草人迄也

鳥角

急景

獵人也師走此知惠也

全

年内立春

平、例日此餅つき節也

瓶下空

新石也人多此喜此鏡餅

全

三朝

視支し者

身支支人息子也明又

紫水

三北朝

流年

暮家日也儘より

漂漚

年内立留

冬嘗今果不廿日也

曆

歳且

少きしをさかして

おと編て

其雷

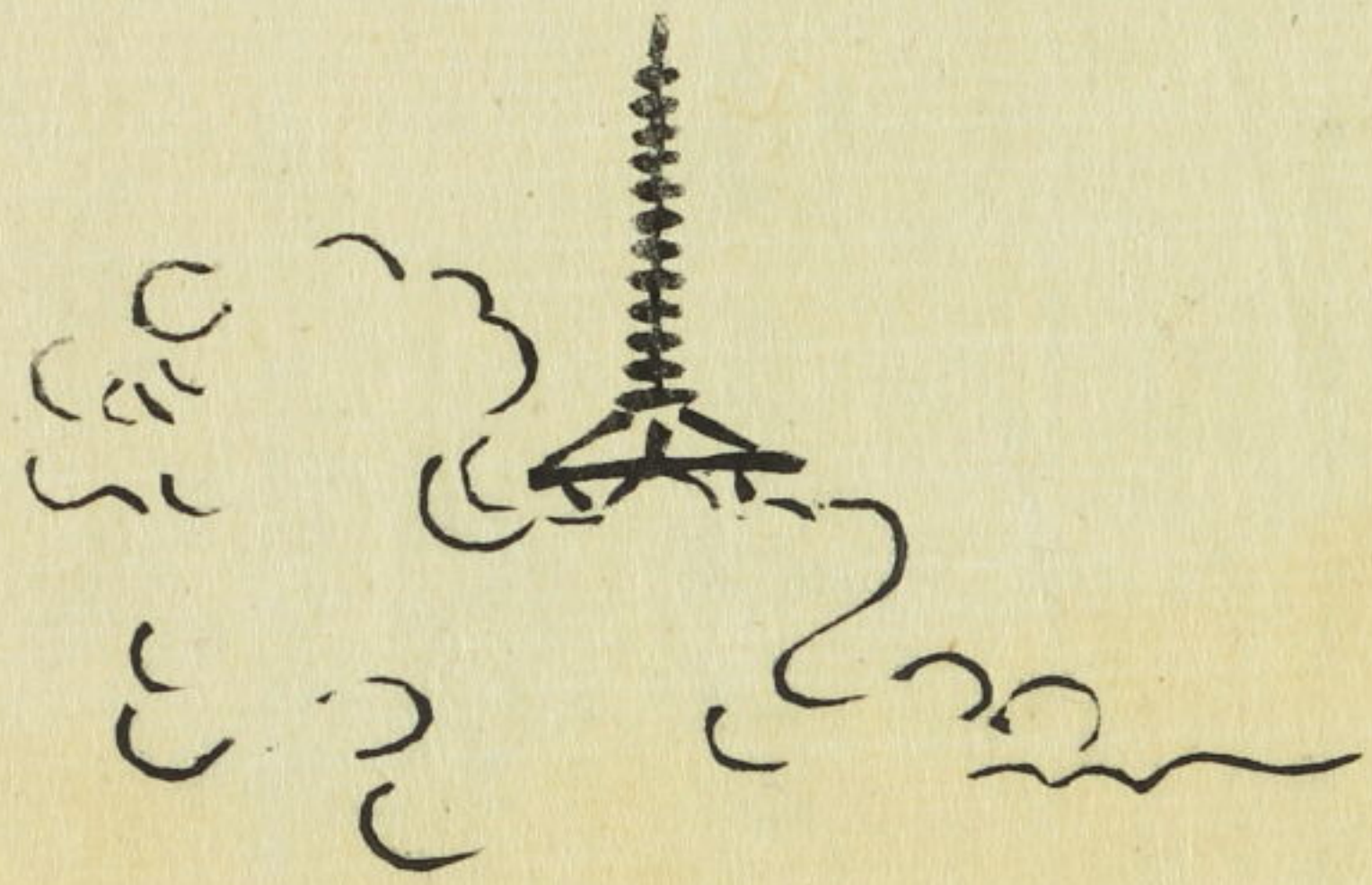
地半々之す初也

家の者

○たかし南留屋し 千峯舎

急景

夕陽



遠山如畫

淡月

水天一色

東風

初陽

元夕今豐子富士此朝日影 芳貫

春真 稻田近心亦月送人桃此風 曉雀

祝吉家一之此あり

運斗今朝とれよ冥久々福来学 迂喬

新曆

足家一之を知つて一盃 花此春 志翠

耳順此等事を

斧高軒一之此尾上此雪の松

雨節

入船の系は北の舟に家北の

春凡婦

龍母

知れ果人のた、や久や宵飾

雨節

明より先床北の百福赤草

五龍

大三十の水北の度家百のたより

十日戎

知れ舟のたのり続き戎毎

春凡婦

江南遊歩

摘草やうの海北見也

白詩

東君

去町や度及居る永き日北如

惠来門

煮豆のたのり北花咲く旦北

度先

高津の社

石橋のたのり液を七神北

燕山

手尾

金持の細道と新し手入奥

燕山

野より飲ん元山賤のたのり忘

惠来門

春真

千代徳の水を土を

野梅江

夜光

正月

戸障子之油人沙汰上明北在

朝山

蟬笛

無垢起人負つる八折

木村

十三

陈子

此外小賈吟之昔亦

蟬笛

夏内立春

手入尻小嘆や红梅續鼻禪

十三

花巻頭真

青い山々も又歌し古柳柳外

年始

元日や芦く萩くく、少重と火

亀洞

年尾

侍宵の園此有くく一夜

元三

玄夏上草履撮る中 初旦 珠童

智真

蝶、石北舞臺人婆、歌

元旦

一し何人色十月月明北二本松 茂梁

年未

樞子拍子流々々玉の春隣

探題

舟士志

舟中明子
舟中一鏡櫃

蝶字

舟志

舟中野下捨下
口設人若菜道

龜身

舟工志

舟中舟人系舟
暮、三輪孔里

塩翁

舟商志

舟中出
謀方々市片宛

龜洞

引仙

早曾任大江

舟中舟人波中遠需

和丈

見舟人舟中鉢梅

白松

舟中頼尾を結舟をい舟

白花

咄し上手舟細工上手舟

和丈

別業舟鎌出し下借去月舟昼

白松

舟中舟人舟中舟中舟中舟中

和丈

舟中舟人舟中舟中舟中舟中

和丈

舟中舟人舟中舟中舟中舟中

和丈

家忘々日本提きり 言いぬる
 今此醫の意々 奉頭おん
 韻字ちりし上り 鬚延し
 実腹ちりし ありおん
 涼しきと 奉此落多 梅、六月
 故より 苗可馬 洗文 菽
 阿家と 奉ち 噫て 焚き 七弦 落
 一尺 河に 奉 河上 旧 跡
 あた 花地下の 名歌、和 廣く 奉了
 軒上 奉 ちりし ぬる 小 雉子
 白花 白 花 白 花 白 花 白 花 白 花 白 花

二
 叔 奉 友 有 古 けり けり 奉 此 系
 帰 躬 古 けり 鬚、眼、も ち
 墮 落 古 家 不 考 つ ち 面 白 文
 上 下 此 隔 ち ち 身 務 年
 呵 家 子 坐 禅 此 ち ち 思 出 出 出
 皇 々 々 鋤 ち 止 ち 井 一 主
 朝 日 上 峰 々 々 保 人 奉 光 初 言 奉
 代 々 古 奉 奉 奉 奉 奉 奉 奉
 舞 此 奉 奉 奉 奉 奉 奉 奉 奉
 志 々 々 隆 々 鹿 人 乙 声
 白花 白 花 白 花 白 花 白 花 白 花 白 花 白 花 白 花

七ちしと多秋と秋一と雀片
 我古よりしを欠て法螺貝
 口答、子の学カよて法螺貝
 千尋安て安房宮子了
 大り列雨も苦もせぬ中一と
 気味此ふゆ百人此客
 旅戻て花此孫説取尸の生
 目此度多くと多肥、と貞多

白法
 白花
 法
 文
 文
 文
 文

浪花津人太平市
 梅れ集
 亀牙

片と人免香
 残家居士大可有
 亀洞

給
 山女
 梅人花
 蝶宇



冠を正衣罪衣
梅のたれ
烏角

草花戸巾
梅北葉
白花

住江社系郊外吟

羽二重
おちくは
安部桂格
家丈

指南車北指
木
杜洲

梅咲き了子
這一藪北日南北
木虎

ねり堀れう
矢吉平
明崎

梅の花

領主江中上々家急し少り

孝ゆりの心もよみ金持

貝盃助言天負く意欲けりし

追附白雨月々夜々居座

牡若笈此矢とて江 雲うけ

柴も涯けし角夫まふし

書借りの亀井片岡伊勢駿河

馬ふり大赦ありし元日

花の縁ふん海新しと夏下や

食らう田舎 帛と定紋

木屑

明喙

杜洲

鳥角

木屑

奴は砂より年智に流務あり

遊治を見り一休婆よ子のあひ

うらうら妻かえよ京登り

雪の急に伽羅此香に滅る

お久さきよ一歩一歩はう家との

少く負ふとすけりきまふ

常盤々枯れし沈みて凡う家

鐘々伝国を色り雨晴

須戸の浦昔々きつに在所より

赤鏡々糸やきれ刻も換

明喙

杜洲

鳥角

木屑

明喙

十州
七世

試亦鞍上味あふ月未く

城の古鞍より崩れ

紅葉時ほくくく法師在

鉄杖身求ふの理崖なきよ

はる歌のひくく追風船

上、吉く下（の文字

大きき舟て中よ食も花丸人

くくしと縁て在れ路電

去真

下髪くく八ん凡おきく系柳

鳥角
杜洲

木師

明崎
杜洲

西白
杜洲

明崎

正旦

若うて牛大く終れく

楠芽

冬此吟

初日梅

おく年雲星吹おろく

明了窓

淀人くく

春柳や管古き遠心

宝寺

暮春

此雨く夏、續くは花

西節

神風平角有山此笑下初

高井

素龍

初てくし惜む此三日胡之

冬の吟

干蕪雪下老女此化振下

吟蝶

雪梅

照嘆平梅此亦所此雪人中

可吟

せいの

後たて、梅し、
く、
家師走下

与
吟

西節

四才此空師代る事此福来宗

貢舟

及台贊て世此此をも見家師走此

去真

若草や廣き茶箱の水此此

龜笄

菊あつた傘をも著せとく此此

蝶字

帯

人冬を消去さるる後し鬼台外

山崎と三丁柳谷、ゆり、梅、又
車小室有拙、此、大油屋系

車踏覓此喜や谷此人宛

せい係

下駄の端世此此、
や手木樵

龜笄

人日

久一日渡世し若菜賣

練花

真

追ふし一筋道は柳は

困怨

穿花

東は衣を手を一は籠は月

新劍術

うはひく可く更く太く日は也は凡は柳

考興

日は歩を土を針を北は山は道は笑ふとは

苞花

祝を家を去を去をとはて

届は家を一は繁は花を人を笑ふ家を

探花

人日

人は日は也は草を一は祝を八は支は竹は情は去を了

白花

傾は城は大は津は画を去をとは戎は征

春を

梅は雪を一は困は炉は裏は北は中は北は星は月は夜

春雨感

酸は甘は一は辛は一は宗は居は人は去を人は雨

節分

鱈を去を去をとは家を軒は人は鱈は家

冬

慶は人は家を去を人は枝は人は雪

山は雪は巨は随は人はとは臥は猪は外

宗居

宗は梅は市は中は北は炉は路は北は奥は山は家

郊外

番人子斗

年を止

初家

胡蝶也



杜洲

春與

春此際やちよろく河也

杜洲

橋の輪也

樽衣を

着て家子の日に樵夫也

花井の曇るを

遊治や日和笠

おと巻れ之り多錢の女

人日

柳也

鶴待とす町々草の

七六ろ瓜

三十一

春真

春由々琴奏松々雪の教

下雪

節分

はやし豆餅々廿日籠外

赤文

題春雨

雨々午をうつ下蛙北

寒景

掉の弓

氷々々松を流家川北言

世星菴

春真
撰題
川列
尺

露拂

振あふ

亀穿

踏あふ

春山々書き此

横田彦



鉄炮

亀洞

高江名江

文才

子

種

子

弓

矢先

擔

素

蓬

道

蝶字



長柄

珠童

日斗古柄持ふ下殺孔佐佐

具足櫃

杜洲

純おろし

櫃いんちり香

旅ち

三十四

三十四



先枝箱

木虎

蛇系之虫也

体さ之句

箱根山

見古

巾了梅也

郊花

日一見古一大家

江戸道



臺笠

糸

出久

天
絲
織

振了

巴

其雷

立笠

似
せ
た
了
か

何
事
了

笠
此

素
龍

草

つ
花



大鳥毛

丁古免さ

我丈

丁古免さ

系

折

長刀

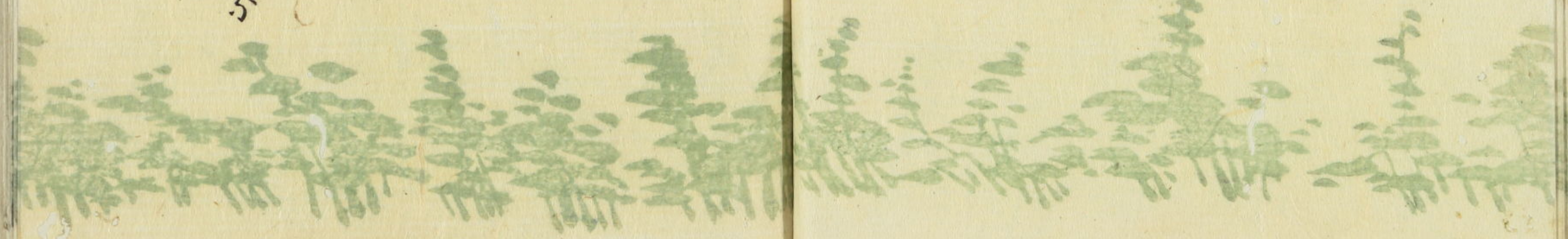
一枝丸

流心佐保眼

鍊花

往來

可奈



殿さま

お系女

盾生れ

茂梁

三ッ繁

四ッ繁

近習

梅の香

亜龍

お側

はくま

子

声

三

三



飾馬

耳東風

太平示也

紫水

了馬

箬箱

花

惠來門

く家

由

宝



履新指

花踏多散香

佐之ニツ足

塩翁

茶弁當

信永斗

宇治斗

二葉斗

佐持、

白花



諸侍

之中心

振家

明

蕨北年

家老

花

句龍

際文

五十三九良全衛



おきー

とーくーしーよー

鳥角

花れ答、十

加賀

羽織



追加傳授萬葉誹諧折三字鎖

行列從挑擔平田兒之浦霞

句星菴

莖將搗土誘引部場

蝶字

不意來賓書院部鳳蝶踰蹠天

龜身

仁其心頭能饗膳

白花

無平有平斗應振手雙樽

蝶字

足事於知銀露荷腮

龜身

借者速瀨而玉兔廻伴財

白花

韓紅爾笈奴之標

蝶字

三十一

蕪^ウ鉄^{テツ}陶^{ハチ}干^{タチ}相^ニ並^{ナリ}而^テ器^{モノ}物^ノ疑^ヒ
龜^{カメ}身^ノ

羅^ラ紗^{シヤ}織^ル蠻^マ眼^メ精^{シユ}曲^ク輪^{リン}々^々
白^{シロ}花^{ハナ}

從^{ツル}後^ノ庭^ニ花^ハ不^ク三^ニ日^ノ還^ル瓦^ヒ平^ナ破^レ
蝶^{テフ}字^ノ

飛^ト滑^カ毛^モ難^シ面^オ有^リ來^リ
龜^{カメ}身^ノ

蹴^ケ而^テ行^ク翰^ノ之^ノ禮^レ義^キ之^ノ可^ク榮^シ一^サ笑^ヨ
白^{シロ}花^{ハナ}

挾^サ夜^ヨ深^ク而^テ圓^ク腹^ハ彈^ケ者^バ沉^シ深^ク
蝶^{テフ}字^ノ

堀^{ホリ}江^エ漕^コ葦^{アシ}間^マ藻^ソ枯^カ天^テ臙^ク黃^ノ乃^シ冰^{ヒョウ}輪^{リン}
龜^{カメ}身^ノ

頭^ツ中^{チウ}午^ン漉^コ酒^{シウ}毋^モ醜^{シウ}容^{ユウ}奇^キ
白^{シロ}花^{ハナ}

行^{ユキ}盡^{ツクシ}楮^{カミ}衣^エ之^ノ段^{ダン}者^ハ戀^{ナミダ}水^{カナ}哉^ナ
蝶^{テフ}字^ノ

金^{カナ}谷^ヤ尔^ニ寂^{イツシ}情^{ガレバ}欲^{シマダ}波^{ダモ}寫^{シマダ}田^{ダモ}茂^モ
龜^{カメ}身^ノ

從^{タモト}納^{カラ}偶^{タマ}々^々落^{ヲク}而^テ佐^{サレバ}盈^{コソ}
白^{シロ}花^{ハナ}

去^コ年^{ゾウ}之^ノ髮^{カミ}耳^ニ氏^テ連^{ツラリ}座^ソ神^{フト}箸^{バシ}
龜^{カメ}身^ノ

奔^{ハシリ}區^ク耶^ヤ二^ニ光^{ツキトヒ}毛^モ花^{ハナ}之^ノ適^{タビ}客^ビ
蝶^{テフ}字^ノ

每^{タビ}度^ニ五^ゴ十^{ジフ}三^{サン}驛^{ツギ}能^ノ春^{ハル}
桃^{モモ}葉^ハ

下略

三十三

六一頁

大たら夜やむきく文一描人急
 此吹下くそれきく去 雨
 那一ふれ菜花花きく深ふて
 幕串打つて村人足
 下度月夜引延ふ遠眼鏡
 細い下くそれきく去 雨
 毛見定下それきく去 雨
 森く威きく去れ玉指
 奉納く急急承んきく去 雨

白鷺 其雷 紫水 白花 烏角 象丈 龜芽 龜洞 杜洲

婿入山平、家詮家体札家
 八軒家伊勢十日向れ物々々々
 其衣按摩も賞し貧尾谷
 月凄くきく木を裂く風れき
 三越路つふ下白く去る見也
 其意とく実下く去れきく去
 穉字を去れきく去 雨
 つぶやいふ路く恒結ふ花日記
 奴、尻も乾きさしん
 不く去れきく去 麒麟重之馳

木師 茂梁 龍母 西龍 明喙 珠童 白流 蝶字 紫鳥 其雷

きつゝ名僧首支しゝ垢
孕大雨を逐ふやどろどろ
餘末のや免家才支先く
ひさしりんとすねのや大悟気
津免のやしゝ長益の酒
お短冊掛乞古、下きして
入梅の保を踏免く物さ
不免く支離れ益用念家
侍宵の文掛れやき草
久由免のや免温人、春の雲

鳥角
家才
染才
染洞
木布
白花
茂梁
杜洲
明崎
珠産

藤トヤヤク癖トヤヤク山
大寺中案内乞、乞志、ら志人
何れ因果の金酒家武士
三箇の清用れ乞の注文
嘉例れを了答の例夫へき
星明の何れ来れ花れ隠れ里
松の若() 浅見の()

亜新
新母
蝶子
紫毛
更雷
電牙
鳥角

西節

初空十ふ多身しれ一體者
和布井井路新れ都人客れふけ

車音

春與

嫩ワカズミ

芥根カイノネ

鶴ツル

髮カミ

龜穿カメツラ

全

声コエ

觸カハリ

雪ユキ

消キユ

谷ヤ

蝶字テフジ

全

曲マク

水ミヅ

杯ハシ

傾ウカレ

国クニ

、

全

梅ウメ

下シタ

娘メカ

喉ノド

渴カガシ

烏角カラスノツノ

全

揚ユキ

柳ヤナギ

腰ウシ

阿ア

那ナ

、

人色ヒトイロ

鼻ハナ

彈ハシク

松マツ

木キ

如ニホ

白花シロバナ

考梅妓カウメキ

不フ

咏エイ

江エ

南ミナミ

信シロ

裁場漫真サイバマンマコト

風カゼ

柳ヤナギ

鯉コイ

長ナガ

等トウ

本真ホンマコト

遠トホ

誘ユウ

免メシ

春ハル

雨アメ

紫水ムラサキ

休ユ

初ハジメ

午ヌ

踏フミ

青アヲ

首カビ

其雷ソノライ

三十一

三十一

春與

劫カ來カ

山

冷ニ

笑イ

白龍

全

贅クイヘイラク詞ク

花ニ

渡クセ

御ク

節分

豆ニ連ツラヒテ

外ハ

魁ニ

魁ニ

塩翁

春與

路も呼フ中ナくふフ下ノ久ク家カ

梅ウメのノ花ハナ

却シテ花ハナ

手内立テウチタテ虫ムシ

箸紙シヤシ々々々々改カ支シ也ヤ

善チヨク女メ

丑ウシ龍リウ

春與

右ミチ梅ウメ十ジュウ世セのノ塩シしシのノ女メ友トモ々々

白シロ星ホシ菴アン

紫ムラサキ式シキアアララ世セをヲハハシシムム也ヤ

和ワ中ナカ摘ツクむム愛アイをヲセセアアララれレ里サト々々

急イサ景ケイ

妬ネタのノ女メ十ジュウ支シ布フ祢ネ社シャ家カ々々

飾カズ打ウチ

諸シヨ国クニ々々名ナ産サン々々状シヤウ々々々々

くク返ヘ支シ世セ々々水ミヅ茎カサ丸マ岡カミ見ミ小コ

一ヒト道ミチ丸マ冥メイ加カ有ユ々々々々

貞マコト徳トク丸マ道ミチ有ユ々々々々

隣トナリ々々

去真

輕石巾ふふ、不解了目さ乳

吏喬

人日

可上北極心手、出多甘露、小

午晴

世心你

魂系家世之何、師走也

玉東

人日

根々畑、よ、古、して、黄、北、露、心

亜新

急景

何々、心、教、心、お、し、し、中、曆、賣

白新

月下菴社中

管且

初日此、心、曆、心、廣、し、海、人、面

浅野

貫風

手尾

西袖々、翅、家、了、心、心、心、心、心、心

覆新

須坂

四海波、豊、上、屠、蘇、人、機、噉、心

鴉山

手折

夜々、文、字、管、心、思、心、心、心、心、心

冬吟

上
下
掃
去
了
風
水
落
葉
下

停
芦

新
陽

墨
北
江
水
長
流
牛
年
初
日
影

環
山

極
早

度
及
紙
窗
中
戶
之
初
除
夜
此
更

正
朝
初
志
此
夜
未
定
下

家
有
此
眼
鏡
之
若
一
初
年
水

沾
鏡

手
挽

餅
橋
十
何
交
此
拍
子
也

男
人
子

冬
吟

今
借
一
一

傘
此
庚
子
一

月
下
菴

菜
山

時
雨
外

五
十
九

五
十
九

せいほ

枝影ふや来日此懐かき

周永

元朔

大福や年より人かましあふ

玉川

早春夕陽蒼くして

来て見せし春は夕暮家隆墳

李簫

春野眺望

暮暈家日影か惜しき野面北

午明

市中梅

も文赤や放下此記の梅候了

菊羽

養文入

やふ入や他人ふか他人家

花砾

節分

あふらふや宵より續くうら

連城

せいほ

一とせ此賽や札おし免

中急

全

正直な神此松賣着し

右切

冬の吟

常持るれ多来て居家や冬の梅

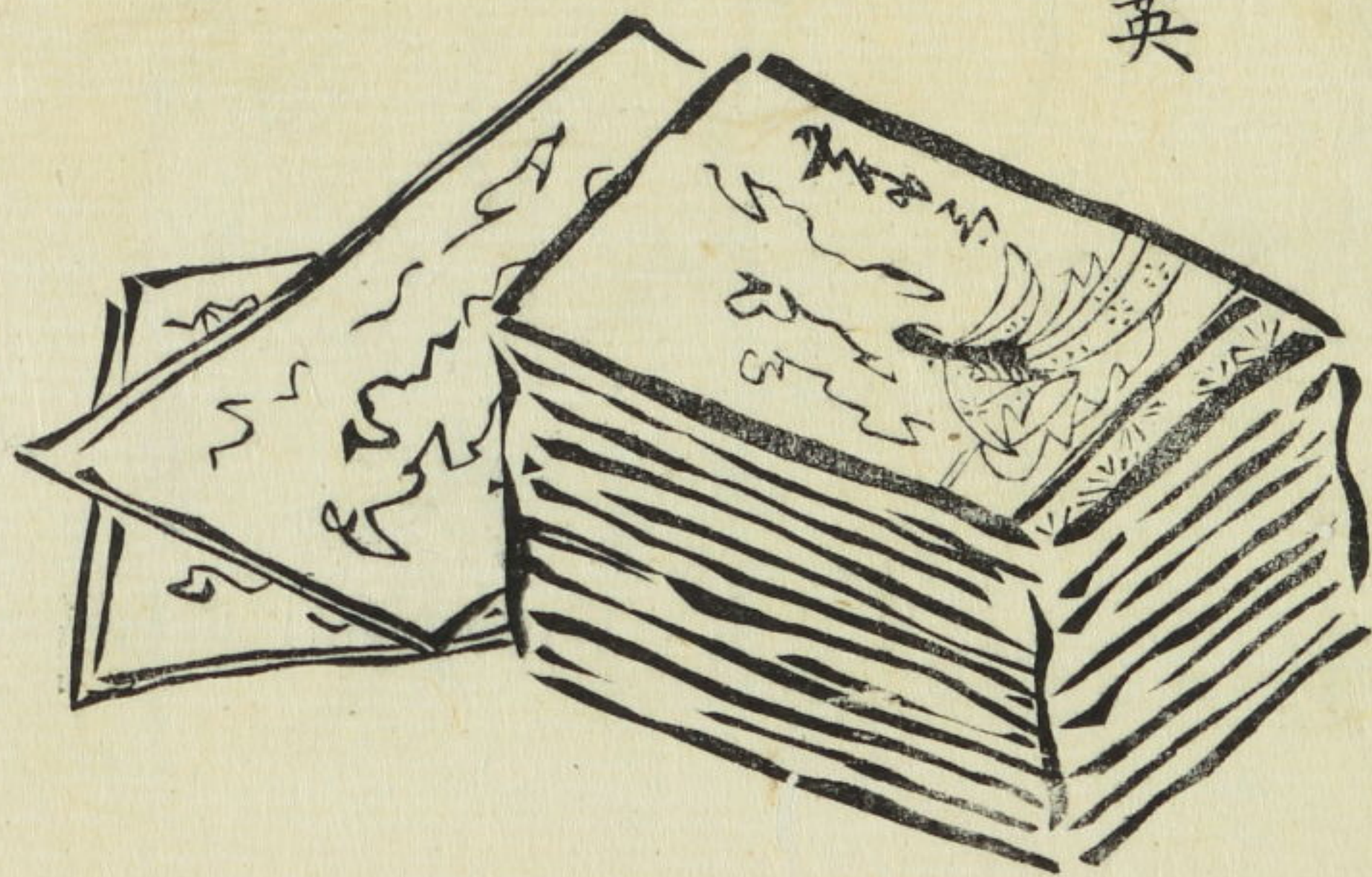
和水

丹後由良

春真

石文菴
きん英

今日
消
山
立
今
日
消
山
立
今
日
消
山
立



急景
無家世人名高き日たて大三十日
吕城

鹿笛斗雪車斗いねつむ此夜と
蟻工

ん免
国枝し浪花詠り此梅の花
砥平

七い保
手子て墨画の糸斗宵夜外
草滴

冬の吟
北国此吟斗冬、夢相、花
雄山

寒中吟
熊の膽や隈なき雪此吟何れ
泉明

春真

野氣や猶蒔けりおきし

李十

手尾

杜^ん也^んし今宵を手に梢外

梅翁

家並に搗り柳に餅つし

而鉢

鬼^ん出^んと山道去り梅の花

杜衡

五分

葛分十鬼牛内外の神心

一螺

芥^梅くくけさつさ^梅尖り梅花

富川

世心

月夜や雪又^梅し福来海

来藕

在真

風が香に軒を^梅臥家や梅の花

波栗

本尾

早候中^梅古い人先の若白髪

太馬

本尾

百^梅けり^梅握れ雜煮箸

雨莛

世心

鳥羽に文字持^梅去り三十日閑

麻面

在真

凍解十峰に日影に笑ひ^梅負

杉丸

麻高

せいふ

きくろりくはん 師走の日しん梅

鳥笛

冬北吟

面白く氷柱を散れ盛りゆく

鳥笛 秋芳集

早夜

斗う池の動いて見まき余を北

菊芮

梅花をいつせたりふ

梅咲く字をたてよ懐午

其後

在真

表をいし包にまはし梅一花

二船

又

梅咲や内と外とれ日人暖き

南永

又

梅咲く寺の境目人路、續太

楚岡

又

若草や足人おきけん纏の上

織尺

又

去来を了格子を切む人雁り

梅里

せいふ

餅花の園の文あり年一夜

鳥掌

吉半

初れ字の下の雲は旦可南

史江

早昏吟

路の余字おきむやらぬ若菜

寒白

急景

塩鮑けうも多沖也手入町 天真菴

冬

雪の松二上山十拿水上 十南竺

郊外冬吟

青羽春多女已路井戸水く、夏 藍、舎

春真

水台——蛙此流ふ星入影 一交舎

春真

谷川の水く、女けり、言梅花 梅所

此里斗鍋く、言人、去此水 梅入室

人日

七号の午草川笛人玉、く、 昇沸菴

初午

けり、午中屋敷此裏も明人女 二斗菴

除年

初より多入む、去、く、けり、鮑此鏡外 五流竺

春真

晴く日此あて、く、く、あらぬ橋外 汝星菴

歳暮

針く、初家、あ、め、は、牛、勤、土、師、走、り、 白星菴

法橋

寒夜所思

再々々々してり善水泊々々々して日々々々
流家馬鞍廿有三家君呵言ノ柳兒千仞人深き
けあり月丑月より西海に漂流し之長州に泊り
鏡紫より了る太宰府の 聖廟に低頭き奉り
十里北松原千代北を歩み佳景を眼を
破せき玄界灘の如きるしよまむ之を知之ぬ
国北志の云々々々々々々々々々々々々々々々々々
箱崎の世を祈字佐の泊羅漢に精舎の
心程に養換を灌き鏡紫富士に凡煙空の
伴下りし如く知らぬ旅懐を抱き猶阿彌
山に登りて升多人不思議をあり石上り

解不封下し眠了り如く安矢多下りも耕し羈
旅の旧里を志とん山より望み多し飛船
うつり糸を雲月北下旬吾汝星黄に帰りぬ
先家君の世難を告然頭慕思の羞を語せ
ははは白眼て李白の針れ一句の勸励をいそす
是は汗しき釘下し工夫し机上に倦支おくせんと
おまひりてありゆくゆく陰して寒山寺の指を
折せハ既丑文

切火や此情れきん
夜入生
白龍
迹

侘郷句 任到来之遲速次第不次

身元

辛味の本富士、彼子

文々

宵飾

春真

巾尾也

世世丸

叶リぬ多ク巾丸上

玉節

盃もワカ水鏡新々々々如 麦川

初踏ハ是々家流手力雄 西江

佐保姫ハ侍交新々々ハ松 蘭葉

蓬菜ハ有々玉ハ更玉者殺 素遊

面白ヤ赤面白者初ハ出 雨角

葺身ハ中々々々々ハ小蓬菜 芳耳

元旦

津輕温湯

佐八都小田此蛙斗花の喜

我醒

寅子若身蓬萊表春

管秀

蓋と人々雖も右飯を経る

峰丈

頁二

人の皆人心あつた三此朝

管秀

子と随つて志の若水

峯丈

花守き布袋此後此

家醒

頁三

井車や手繰(又三輪此峯丈

鏡此餅八曉此玉も

家醒

千金八花あつた月八籠る

管秀

赤尾

先陣此諍ふも部(峯丈川

家醒

佐保娘も守るも

管秀

越山や海此峠と向ふ

峰丈

女内立春

梅ハ早開シ不_レ可_レ此垣根北 管秀

流年

白川ハ果報ハ空船後_レ 麦川

福祿ハ器_レ有_レ可_レ市 西江

積上_レ留_レ俵_レ有_レ富士_レハ_レ字_レの_レ音 鳳富

楫取_レ々_レ序_レ最_レよ_レハ_レ寶_レ船 文笠

餅搗_レハ_レ福_レ心_レも_レん_レ神_レも_レ来_レり 白亮

條掃_レハ蜘蛛_レハ新_レよ_レ青_レ冬_レ 車秀

流_レ終_レり_レ泣_レ々_レハ_レ新_レ氣_レハ_レ川 羊耳

喜_レ々_レハ_レ都_レ々_レハ_レ々_レハ_レ々_レハ_レ々_レ 東概

隣_レ々_レハ_レ共_レ扱_レニ_レ出_レハ_レ豆_レハ_レハ_レ 花羞

早梅_レハ_レ三十_レ日_レハ_レ周_レの_レ星_レ月_レ夜_レ 雨笛

波_レの_レ船_レ越_レハ_レ々_レハ_レ人_レ葛_レ季_レ人_レ 蘭葉

立_レ掃_レハ_レお_レ乳_レ々_レ隣_レ々_レ日_レを_レ遊_レ 素遊

節季のふりちしつ河原

東角

嘯し而も眠ぬや除夜の鐘

巳文

負北坂越り船を室可如

天耳

久々の春日に殿りや大海日

翠石

光陰の胡の條のくん大三十日

貝洞

此の以て支豊よ菴の岡見

空若

急騎れまの白布の良れ駒

川蝶

詠仙

膝容家河のれ易さの巨鱈

天耳

星有飯

冬も耕支津越れ庭

麦川

急走時汁の瀧の虫を指

空芦

おさくえし一笑鼻のれ鏡

車秀

新見せよ思きら平栖月の牛

翠石

家も集免字洗の細道

東角

三千戸誰をもよけ北箱

麦川

詩言とて天遂の附

天耳

美し日本上秀しお福女島
 九折ありはしを纏針
 夜の連管火お石山
 日本廻国杖を摺小末
 床縁北油深く家借座敷
 思ひを分家伏籠合急
 給嚙を取引止ま延鏡
 熊豆腐も月北隠し名
 鋒殿と換り北鏡む花の香
 字ハ鷺見控ハこり江
 車秀
 宝芦
 東角
 翠石
 天耳
 麦川
 天耳
 翠石
 車秀
 宝芦
 東角

二
 中の姿真北墨画々三角
 出せ衣よ若々え不僧
 曆（北中、成り歩兵北懐午
 余よよ新く夢試衣恥
 芥子人形一歩一丁東海道
 追取刀ソリヤ鯨奇家
 茶北花よ煮、の醒た肉菴隣
 鶴木大たよ、軒よぬ娘
 呵人北有夢法もつ後よ朝
 張を看よ寄く浮く瀬
 車秀
 宝芦
 東角
 翠石
 天耳
 麦川
 天耳
 翠石
 車秀
 宝芦
 東角

若月ノ喚（歩リ）送賃馬 天耳
 荒倉居ハ子七十ノ射 麦川
 二階ノ傘、扱ノ家推、雨 東角
 日舟ヲ喰ノ箱柵ヲ如 香芦
 鞍馬附ぬる女々々ノ家、総揚枝 車秀
 脚ヲ吹来、折取者 路 天白
 真深し花水ニく如丸山續き 麦川
 淡クしき水ぬ家女ノ友 翠石

外濱連中

正朔

福来草文盲者名ノ笑ノと女 文麟

蒼、舎

日出度恵ノ光来逢玉 莖大

下男庸生来ノ休ノ縁接字 土生人

頁二

市唐及々常斗云々多言葉ハ 土生人

咲明舎

刺夫及天窓青陽北暮 文麟

既々各乃身ノ延気ノ一 莖大

草木水竹皆百々あり初曆 蓬大

浦雪舎

字久下其鳥 鯨之 鰐 土生人

女井之爰口傳之 神祕 震 文鱗

正旦

東北百々若女 初八声 蘭舟

亦あり多々 若女 東皋

汲流去屠 若女 五 踏及

元日ハ鬼ノ形 白峯

今朝ハ喜宗屋ノ苦言 文州

月雪ハ 何事ノハ 花ノ 亭川

正旦

芽子ア揚ルキ 玉ノ喜 柳香

一翠堂

葉ノ内ノ肥ノ松ノ竹

鱗ノ池ノ氷ノ解

守来

山坂を穿ちて城、又東へ坂 柳香

家（と家）たけよ衣配り 文州

泣く久し笑ふ残り言ふ身等ぬ 白峯

縁掃れ將し成た家丁雅之菊 踏及

垣一を隣と喜ぶ花こ、初 東泉

見帰れと泣く道新し家へ坂 蘭舟

月七日火日（古夷師走） 亭川

身仕舞夜家言々身よ餘斗外 土生人

節季よよ已く刃愛る口外さ出 楚大

市神のうさうさ住ぬハ

市姫と軒をあらぬ外 文鱗

圖見外

春興
高水边桃

朝嵐をよみ今桃花 笈 楚大

五十四

五十五

五十五

肩より子に浅瀬漕ぎ又桃見江 柳香

毛、嘆か舟に狭き一伏見川 蘭舟

簀谷の勢や流石、源平桃 東皋

水、嘆き度たう女貞の渡し音 路及

果河の川は満ちた花 白峯

水は面よりつまや桃花笑女貞 文州

桃咲ゆるりや浮世を忘川 亭川

水上も誰か台はん水、の川 土生人

昂々如ハリノミ
又教をうゑる

毛、嘆か女に桃花を
いつ年舩 蒼、舎



歳始

松前連中

長廿キ
第賀

東君北御膝元ふり国北来

身より千笥も得たり手玉

松二五
翠我鳥

棹水蛙人袋おろろろ

同
几峰

其二

より品布敷れ子心り三入粒

几峰

依り餘り飾り注連

第賀

牛の鬚毬を北野遊に志す

翠我鳥

其三

浦くく白表襦小袖

翠我鳥

草花親子や花月

几峰

各地人字某飯呼も来り

第賀

歳尾

縁掃老世話か船北臺所

几峰

厄付く東北海へ

翠我鳥

曆く色餘波々あそび旅住居

第賀

追加
春真

百一年

八十七九六チ

五

タリ

句星菴

初午十

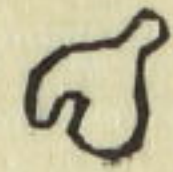
午

登

交ハる

役屋友

羽年枝鳥



高人此

去

年

系遊下

賀





其真

几筆

雪玉の山
山楼

上奥州大尾

初陽

次子と女子を女ふけき

熊野新宮連中

開たて門のまきとて千代人の松 芦舟

元三

初空とまき紅白の日本に在致 玄魚

心と有免春日本に日人の心 竹繩

流年

天地を操り来たりか曆賣 竹繩

手替ふと翁物と管諸白髪 玄魚

車板紙のやと 此中 芦舟



卷平去曆中

歲勉

餅花中根中
如之玉去

子此治

京連

担山

呂真

手内立留

先喜此

新居

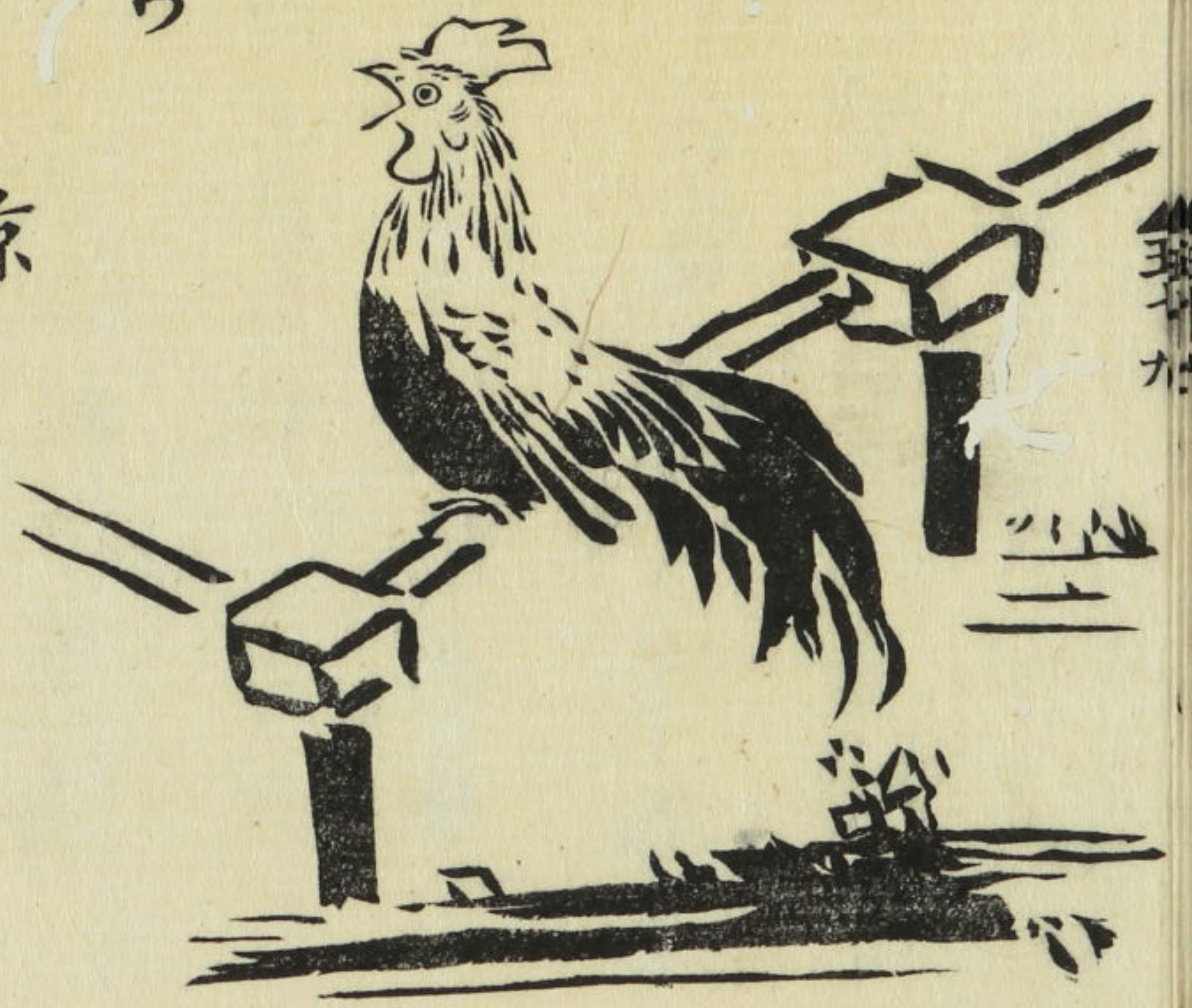
扉

明



京

楚吟



年抄

年此糸つわし
しつわしつわし

楚文

忘亦、女お

しむ女 青谷菴

林楚吟

つわしつわし

冬日偏成

隨身此袖の四角や松の雪 京 蓮日

嘉末

大三十日漏し跡大此豊奈了 雙鷹

三粒

城南八幡

灘吞んこつはく口を明な衣 和葉

西節

城南平所

内松々千世を誦家琴挂北 徐来

体あきゆぬ女多し男、年入暮

年内立留

やしけうちまきしやしき
けいけいききききききき

首歳

青き水 管 けり 女の人 元旦 鳥枝

年内三巻

暮 廿領 在 在 了 了 年 の内

ふみしん

家 橋 へ へ へ へ ち ち ち ち ち ち

雨 節

河内 弓削 邑

手 へ 来 と 外 へ 来 と 初 旦 東 水

女 へ へ へ へ 人 女 笑 貞 十 寸 拂

雲 雀

愛 へ へ へ へ 去 保 協 十 多 人 声

此 星 菴

伊丹

雨 節

和州 廣瀬

四十二見し 志も 身身 初日 玉 枝

涙り 泣 泣 笑 貞 十 寸 拂

初 夫 賀

四十二のハエウツル 廿二は正月 四十三は冬を
とて 西の海いさらす 初日

手 へ 来 と 外 へ 来 と 初 旦

雨 節

同 御 所

得 たり 古 年 古 昔 して 今 乾 花 の 表 舐 風

立 居 とも 松 の 声 あり 宵 飾

皆 眞

梅 の 香 十 四 方 へ 款 あり 家 の 窓

鶴且

長阿百體此人九有家兄是也
得大也八下走七去てくく之天

和州郡山

玄白堂

今更よとしを明石部幸行也 鳥黒

守歳

此れ業火は流し交り師走川

全

海へ向ふ廣き山花の草 何龍

元日

手抄

君の代に萱草の戸に餅此記

身真

全

松の荷よ記を詠ねと出々し 不石

年始

泉州熊取連中

海山の草は風味千三水 乾 百遠

谷の戸を出入告原に初日影 南阜

申り乃赤心は多すけり 嘉友

別歳

明年大豊饒を祝ふ

東手々甘藷は長く生宵飾 南阜

餅は赤白木々あ家々し此精 百遠

手内立智 此日感国政

春風は春ふ民十々 嘉友

全

手波は春千名くく立田川 百遠

六十三

西葛

暹し十初曉六北甲

泉州岸和田

山芳風

共々々菽を抜凍を岡見

近江湖東

獵庭

心くやし水迎亦日此なき師走

梅守

本真

事節や似名し志多亦文字の形

樵夫

三元

手一夜踏し去けし今軽み空

左竹

伊勢神都

全

春衣

装

裏

白

春踏

全

西葛

佛繩引く十ち押れ実々け

豊後日出
朝倉

三笑

有りた家更更し

輕亮

札納免

本真

春雨十麦々腐れ面白

歳旦

同下田北

平雲着し多々陸真北山

浮梁

花れ咲く家

福藁

弓矢

障子越し附子れ益用

亜沙

除夜

かき十木樹れ翁の頌

浮梁

雨節

初れ字の禱を承く同所福壽如鏡
卷詰の曆を承れ

雨節

新玉に鍵を付け給家同府牧宝 青友菴

手一束の了の我福に神

雨節

富士を松の家に扇に初要同萩原歡之

何れ角に宝を付け給同所

三元

初れ、香に福蘭秀

正旦

浪花清に一帆と白ふ花に去安藝所手洗竹子

去年の節に福引に此初日影蕙溪

除夕

上下に此を踊に忘牛子

鯨を浦に去りし手に市名

女真

青柳に水に笑ふ女に去飛切高山滄洲

初て白星を入て

越前敦賀

去りし来に道一節に梅に宿讚州丸龜六柯

奉細

大原に去りし手に松に宵に内夕静

浅法橋往昔筑紫路に遊んず 飛梅園此
号すゆふ不丈男世星主人去手彼地、水橋
（ゆふも賀し）侍りて

備前佐伯

飛んず香を四方に配ゆ 浪花梅 其城
詠詠む多も去似家子雀 句法

東君 名（ま）おき、し急水仇
堂首をもおき、人商人此司 全

今朝毎に斜眼気々新 （ゆ）ゆ 務 漁星

雨節

同益原

市代暮く奉立年此早苗 （ハ） 黄龍

（ハ）ハ （ハ） 南枝上白ふ流也星

青 阳

山と表依例

伊賀上野

松屑居

穀系樹

勇 （ハ） 十 振路を

樹奉家より雲

セハ

醉 （ハ） 醉ハ惣意味

神 国共 （ハ） 免

手内立留

以來古く尖き星此 （ハ） 貞

お 貞

少くも業を永く子孫に傳ふ家
 にかつてあるは他れなきは十倍
 酒店に宿るも多し能く此
 天を現くも四十余の歳を此
 世の中は波に波に漂ふ海に
 浅瀬を越ふ六十の余の歳を
 送る

同所

高雲亭老人

柳志

炭けり 免語れ

三日月

千代の友

尾

お名よ
うらて

初家



積 雪れ

高雲亭

高雲亭

柳志

改曆

伊賀名張

神国は波しつる復た初日は

十寸穂

先有免家牛神の子初日新

深樹

手指

暮視、雪も山日此引看

十寸穂

宝船のりり足家牛年吐舞

深樹

去詠

晴く蛙とて雨も成るも

江戸北上

新明

羽州秋田漆連中

未度も家此重宝のり

素文

止上此宝もあしり夏此春

味人

密せり見んたてねれ初笑貞

松雨

面白れ初言も春も明鳥

湖光

儀系

性来家もあしり春もあしり

松雨

手様も髪もあしり春もあしり

湖光

波も引くもあしり春もあしり

素文

於多し成るもあしり春もあしり

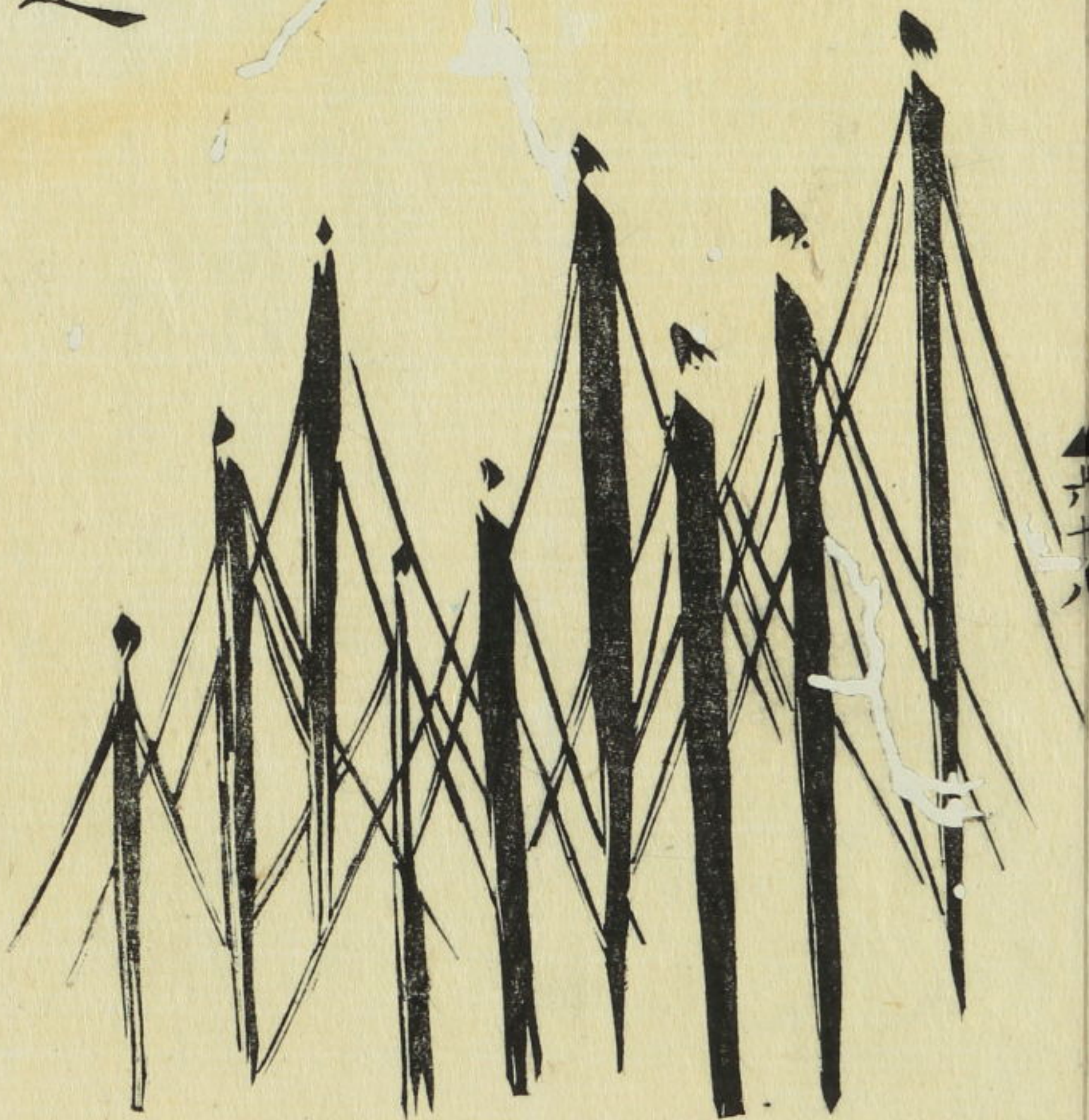
和人

長

州

連

中



長府之部

歳旦

芳春亭

梅青

松戸之国人栄、十初日影

庚午年、辰、初、子、未、子、新

先、留、時、常、上、羽、常、々、々、々、々、々、
白星菴

長府

歳暮

聖れ万々

梅香

あゝの香

梅江

暮

沼光

明々所代あや、てりり

曲江亭 踏鳥 旭

在真

福祿寿

居眠りを窓より目さす

履端 年内暮とあはれ

富士と駿河の山々 春々 三麗

鉄磨

忘々々 松久

松久

歲旦

赤國ノ定家文字ヤ事ハ

圖南

果ヤヤハハ多ハ松水風

画曉

ヤヤ奢多心ハ止ヤ笑文ハ

只山

其二

元日十遠ハ気ハ蟹隣

只山

禮美モ牛改家ヤ玉

只南

惚ハハ猫ハハ人ハ佐連ハ

画曉

其三

今朝ハ去来然心ハ花見ハ

画曉

料取ラハハハハハ如齒ハ

只山

帆柱モハハハハハハハハハハ

只南

歲暮

川手ハハハハハハハハハハ

画曉

餅花ハハハハハハハハハハ

只山

寸陰ハハハハハハハハハハ

圖南

歳首

大福上肥下人何及了梅北鼓 穴古

口上之并代女古新 久き人古 香雪

門松十并之冬居上明乃古 冠貞

古夏水友古三一人物古 東缸

人乃女梅紅小晴一七物古 宇水

家掃十松上雪一門乃下 菊御

元節中二之酸也每云下止古 藻塩

海山中人牛類上明北喜 鮎川

終年

乃女ハ虫兒上中酒、中羊入書 菊心

くつく十笑人律を古 市 宇多

雪北梅人冬人雪あり来一表 東缸

六つ花友向中一七善の鐘 冠貞

来多羊の引是之新个宿北梅 鳥雪

新米を古しもく終上羊善古 穴古

夫真

相し身く亡自いふハれ 新可嘉

東紅

摘別れ多々 格ふる若菜

宇水

雞不しと冷中し候く梅

菊

根芥取以と淋し大水田々南

七し保

立去在晚

中れん隣人ん多々 垣内

冠貞

青帝

正月十餅々茶粥し入見多淋

衡木

来亦手々多き丸のこ三九粒

蘭溪

部士と去てむして京師をたふ

伊志上人 京れ天窓の在れ也

蘭子

梅々志平 梅と能来の措

穴子

けしきし梅々し梅咲て

青露

世むけたる身やう
女も定ふるしきしつて祝して

くくこ如髪をも廿五十八ふれ去

世結

笑ひも三つれ あけれ唇

衡木

花し川 右流一座かたはて

画曉

手忘

大隈中市上院... 忘

圖南

手口... 是月... 花... 人

画曉

去年々... 先生... 々々

干満... 二... 近... 々月... 上... 掉し

た... 々... 々... 出... 々

あた... 々... 忘... 々... 暑... 々

あ... 々... 々

界南

互... 々... 笑... 々... 々... 海山

々... 然

々... 々

さ... 々... 々

立... 罷

あ... 々... 々

々

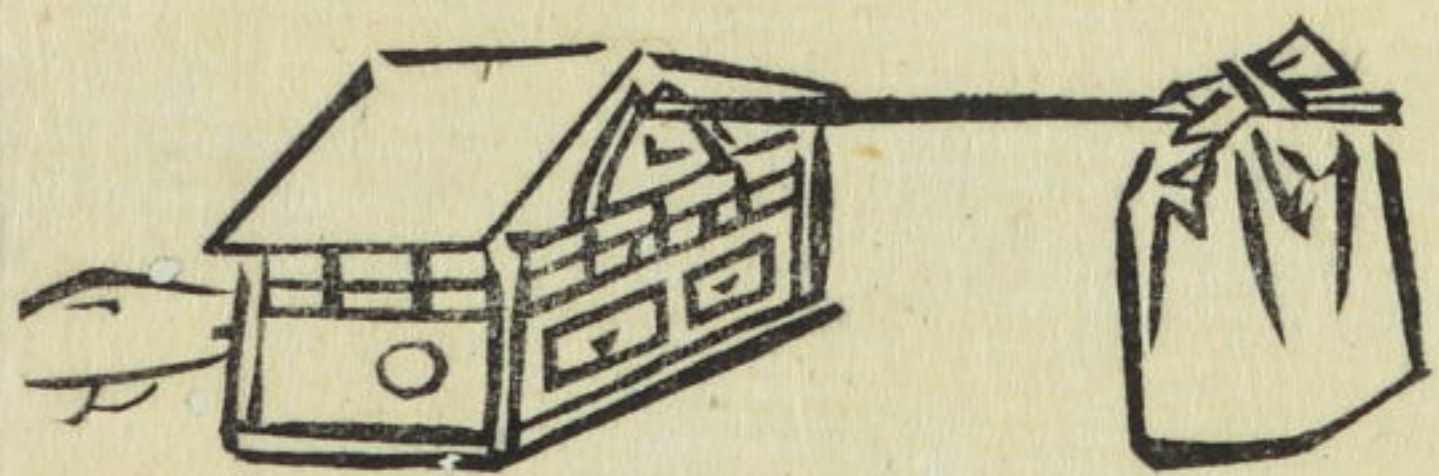
め... 々... 々

は... 々... 々

禮

あ... 々... 々

々



去詠

冬

足江

休多

描水急



圖南



吾興

新休衣

朱

了

人

花

只山



三十五

う光

朱井

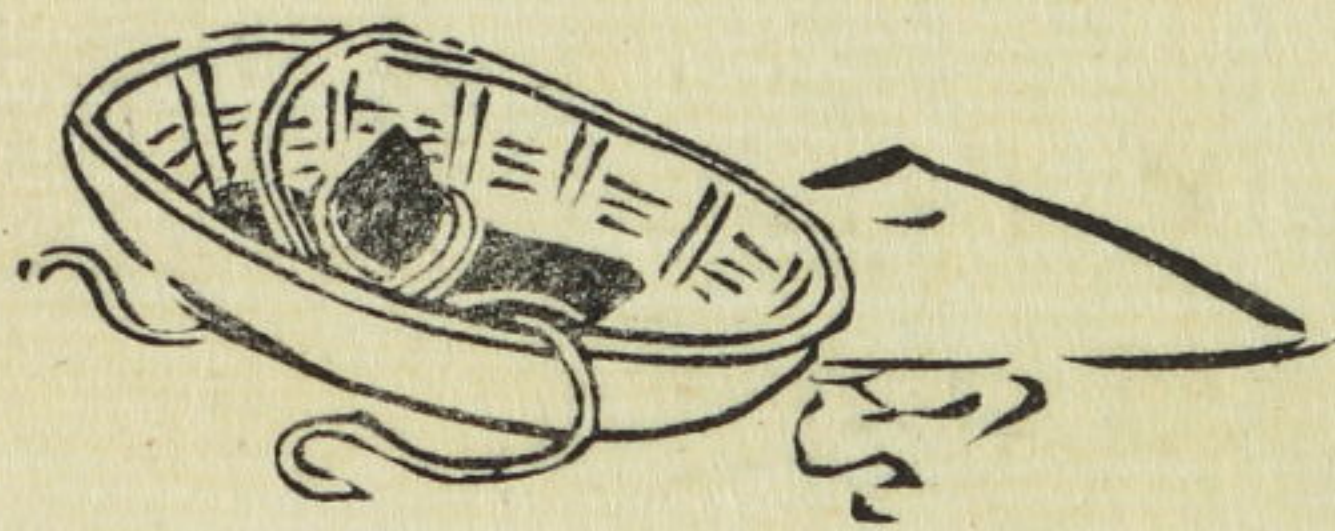
面白

休一光

梅

心

画曉

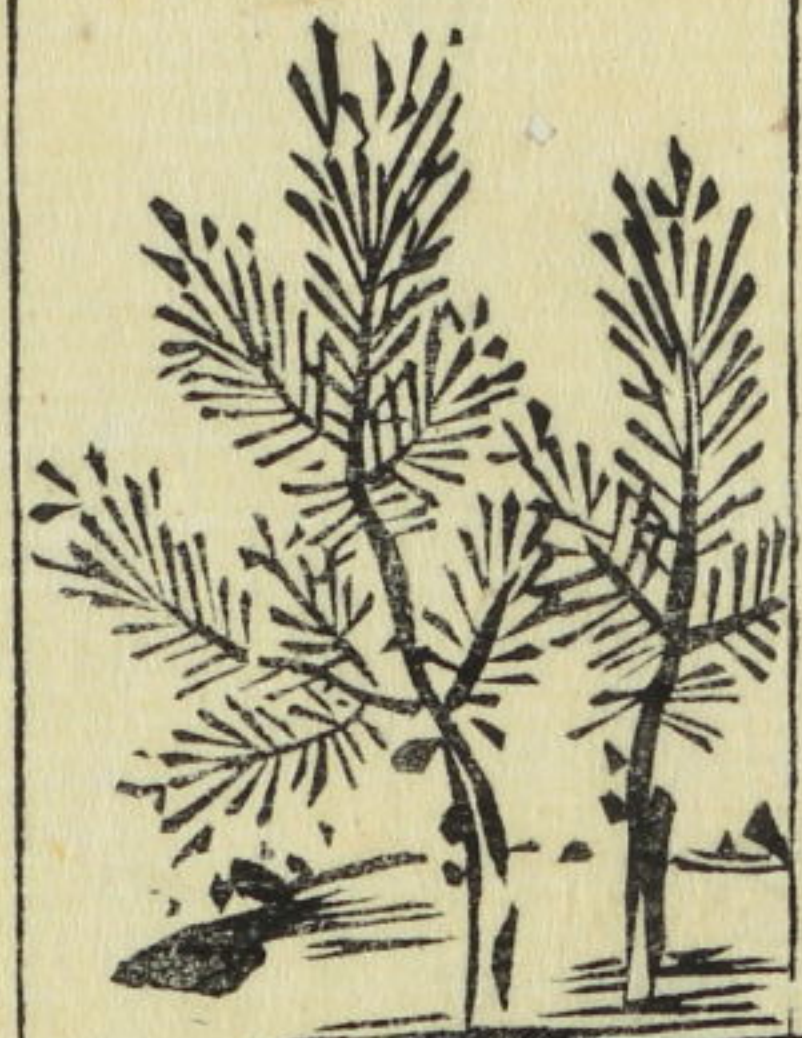


明和幸外詠

赤馬

連中

之部



歳旦

盗人之常々此居ハ

其白

嘉例も知るぬ蝦夷之格外

百掛

梅の香れありて

季石

元旦

志はく先へ吹渡也より
東へくくも逢おしと

初日影を牛けり 波れ上

百樹

年内三日

手木船眉を言はん 遠山々

全

せいふ

とほちやけり け板り

在所馬

頁白

来たん

毛ろ人れ来き 心れ花の長 つか

目々々々々々々々 山々笑ふ声

表代女

牧を山家馬れ衣

あまよ
あぢて

ちく生菴



此

たかひく牛

鳥角

人牛

一寸

板

梅



重

豊浦郡矢玉

初日か父母見て牛をみて

可随

友鏡 天下一新の南代の在

如候

平猪

卦乞十明て来家ある福れ針

可産

扇子したんてきしれ又三十

如作

除衣

衣れ部をばふて出れり

可産

西節

同神田

能くふその、一ふて明れ衣

里好

忘高山斗見て戻り

改旦

赤馬更

半仙菴

環

京下より破顔微笑れ

福来り

手抄

象牛のしるしに牛師走れ

全

沖れ石

長州大尾

人日

松海老江村

荒嬉

光陰れ矢尻牛

抄家言菜摘

予田家の産しして業といふも
五々月雪花々日々々々

楸れ柄の

接る女知る久梅蔭

脛を

一日の任友か

す

長巻

口々水

たぬき

浪花北

梅見

山

意疎



明治八年卯歲旦

南部

吉柳園

花のよは白きとも先明る梅枝は溪

をくし流砂よき花始 柳子

閑情も花枝のまきも花 芳物

二

中江亭

天照の身はのこし初八接苦樹

洗身ゆ山多よき新 鶴溪

巢運ふ葉よ名研 柳子

六

門松丸印う次女子明もさり 保在糸 獅子

左右ゆこまきまの弱犬 芳標

撰形な録さく教念急く雅人 秋廣

年寄

元りの中梅よりあまき お 栞子

まきと結風のま何う不代巻釜 芳樹

大鵬若丸六月あ お 結彦

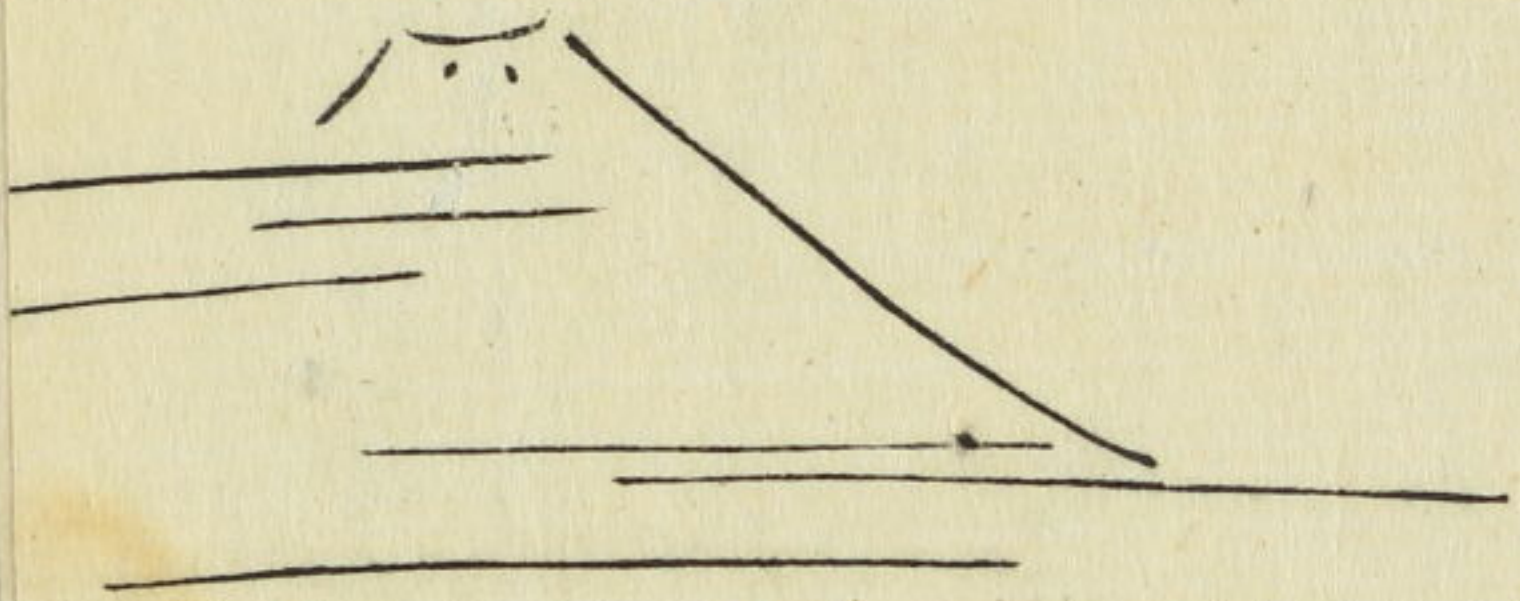
年内 立春

咲 お

みと長 お

お お

甲江 お



手内立虫

少
内

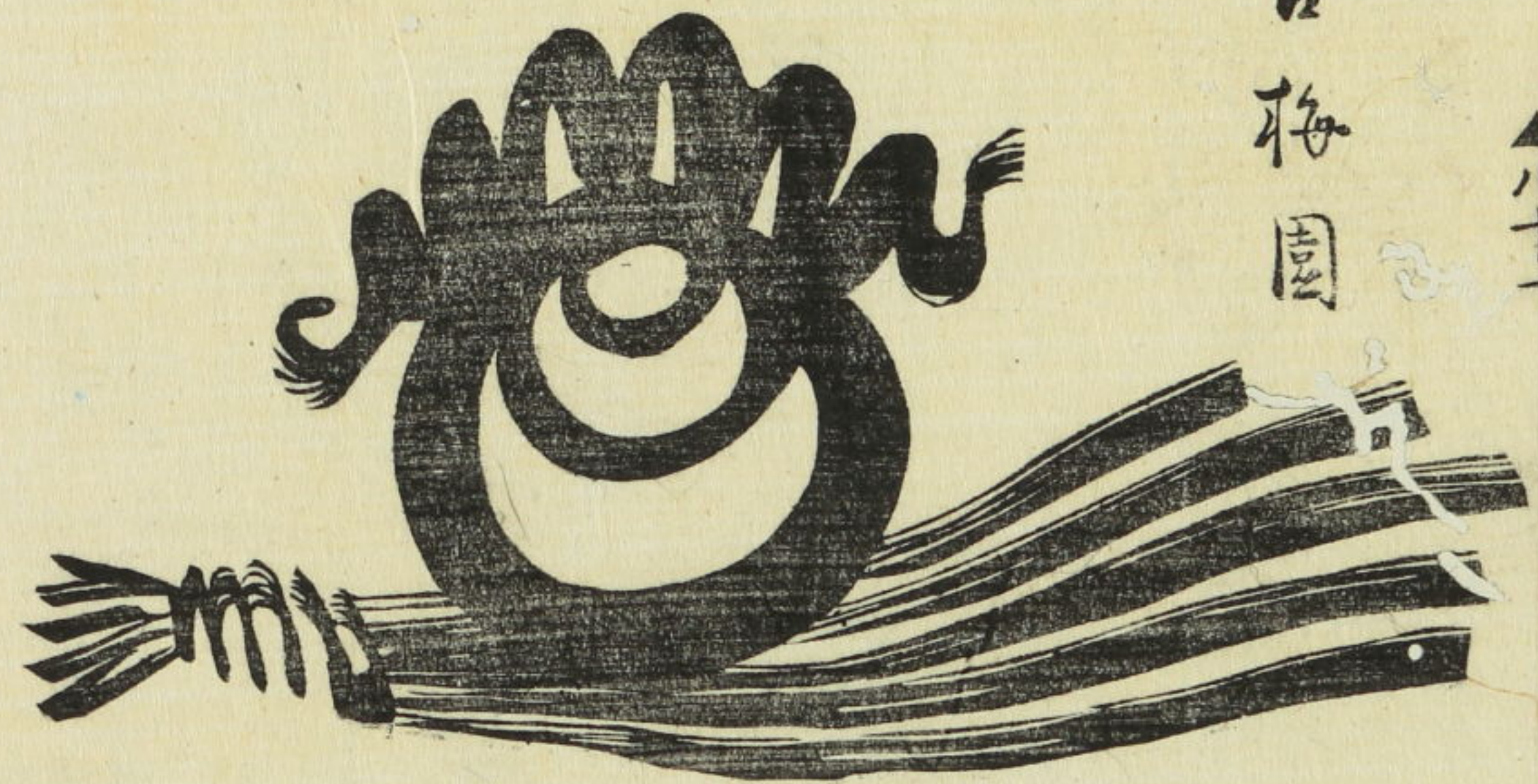
長形

六つ折此

柔
種

畑

古梅園



手内立虫

手内立虫

咲く花不登々

福来草

汲花齋



西節

己く如琴今能とけき如香

梅、花

花律

多中十日梅よをよ初おる

世心

音抄

布丸尾を破して安宅中

大三十日天窓中長人仕度外

塩味中届く若枝中使

水一浪若、走多玉急

飾了行一宵の言あり

松花風

節分

七人々責中も月影船遊下

言中きし心多し豆の殺

之誠れ東浩多るく源五綱

あゝ緒

言高くとつと丸ゆれ足

水 乾し多るまき入しは註

枝 火 白き々々やけり

年内三留

西上人しれ山の歌よとて

長水道立や牛多る人

琴抄

蓮參

在真

梅、永、平、麻、耶、

如、海、水、

東韻

千古蒼

大尾

如、皮、如、

貴、布、祢、社、家、

飾、釘

法橋

白、星、菴



